

# 現場の情報一元管理

## プラットフォームフォーム試行運用

大成ロテック

大成ロテックは9日、代表的な建設工事の情報や進捗（しんちよく）状況が本支社、現場で共有できるシステムの試行運用を開始したと発表した。工事担当者が作成する▽工事概要書▽施工計画書▽実施予算書▽工事工程表▽現場状況写真▽図面情報―などを特定のフォルダに格納し一元管理する。

システムの名称は「Taisei Rotec Platform（大成ロテック・プラットフォーム）」。工事支援を行う本支社や工事事務所の関係者、工事担当者が情報を共有する。格納データの位置情報を図面から読み取り、ウェブのバーチャル地球儀で確認できる。情報はデータベースとして類似工事の入手、入手後にも活用できる。業務負担を軽減し生産性の向上に貢献する。

同社は東京都市大学の五艘隆志准教授の助言を得て2019年度からシステム開発に着手。試行運用を通じ課題を洗い出しシステムの完成を目指す。

急速に加速する3Dデータの利活用に向け、3D表示が可能なバーチャル地球儀の効果的な機能を検証し、BIM/CIMへの対応を含めシステムを高度化する。将来的には建設機械や作業員の移動データを、産業分野ごとのIoT（モノのインターネット）でセンシング。自動収集した生産管理データを基に重機や作業員の稼働状況のモニタリングや作業日報、工程管理の自動化を目指す。